

「佐喜浜躍動天然杉郷土の森」

～高知県室戸市と保存協定調印式～

10月30日に、室戸市長と「郷土の森」設定の保存協定を調印しました。

(詳細は2頁)



調印式（左側：新木局長、右側：小松室戸市長）



段ノ谷山天然杉「大杉」



段ノ谷山天然杉「ハロー杉」



一〇月三〇日四国森林管理
局において安芸森林管理
署管内の段ノ谷山国有林に
ついて、室戸市長と「郷土
の森」設定のための保存協
定の調印式を行いました。

調印式には、室戸市から
小松市長はじめ四名の方々
が、四国森林管理局からは
新木局長等五名が出席しま
した。

初めに、新木局長より、
『昨年九月に室戸市が世界
ジオパークの認定を受けら
れたことは、本当に喜ばし
いニュースでした。心から
お祝い申し上げます。「郷
土の森」につきましては、



段ノ谷山天然杉「大杉」

地域のシンボル、誇りとし
て皆様に大切に思ってもら
っている国有林を、今後とも
森林としての現状を維持す
るとともに、地域おこしに
も役立てて頂くという趣旨
で設定して来ています。今
後は、ジオパークを核とし
て室戸市の益々の発展が

図られることと存じますが、
今回の「郷土の森」の設定
が室戸市のムーブメントに
貢献できることになれば大
変素晴らしいことであると
ともに、ネーミングについ
ては、市民の皆様からの公募
により「佐喜浜躍動天然杉
郷土の森」と名づけられま
したが、ワクワクするよう
な名称で情報発信にもなる
のではと期待しています。』
との挨拶がありました。

一方、小松室戸市長から
は、『平成三年度に室戸市
全体が世界ジオパークとし
て認定された中でも、この
エリアは「大地と生態系と
人とのつながりが見られる
場所」という見どころとし
て指定している場所で、観
光客だけでなく、地元住民
からもこの周辺の自然資源
や文化・歴史は「郷土の宝」

として親しまれております。
今後段ノ谷山エリアを地
域住民等と一丸となって「郷
土の宝」として適切に保護・
管理しながら、学校教育や
レクリエーションの場等と
して活用するとともに、地
域の活性化と振興のために
尽力することをお誓い申し
上げます。』との力強いご挨拶
がありました。

今回の郷土の森、段ノ谷
山国有林の特色としては、

参勤交代で使用されていた
野根山街道につながり、標
高六七五〇〜九〇〇m付近
に、樹齢

四〇〇年を
超える天然

杉の巨樹・
巨木が群生
し、魚梁瀬
スギの千本
山国有林と

は一味違った自然を楽しむ
ことができます。

この天然杉の巨樹・巨木
群の中には、特徴的な形態
を示す天然杉が三三本確認
されており、それぞれにハ
ロー杉、江戸杉、ゾウ杉、
たこ八杉などのユニークな
名前が付けられ、その中に
は幹周りが一二mを超える
ものもあり、これらの巨木
奇樹は登山道沿いで間近に
見ることができます。

今回の協定で四国森林管
理局管内で七か所目の設定
になります。今後、こ



段ノ谷山天然杉「双子二代杉」

の様な特色ある森林を、森林レクリエーション、森林環境教育の場等として活用することにより、地域振興

への寄与となるよう森林の適切な保全・管理に努めていきます。

「第二回国有林モニター勉強会」を開催

《企画調整室》

平成二四年一月一日、高知県吾川郡いの町にある

い。との挨拶がありました。

嶺北森林管理署管内の国有林において、平成二四年度第二回国有林モニター勉強会を開催しました。当日は曇りで、少し冷え込みましたが、四国四県から国有林モニターの方、一四名が参加されました。

開会にあたり新木四国森林管理局長から「実際に森林の状況を見て感じていただき、国有林の取組について理解を深めていただきた



治山事業の説明

初めは、早明浦治山事業所が実施している民有林の地すべり対策事業施工地に



小雪混じりの瓶ヶ森

において、国が直轄事業で行っている地すべり対策工事について、施設の概要や必要性、公共土木工事における木材利用の取組等の説明を行い、アンカー工や集水井の状況を見学しました。

次に、愛媛県との県境に位置する瓶ヶ森自然休養林を見学しました。標高が高いため、小雪が降る中での見学となりましたが、ウラジロモミ等に樹水を見ることができました。

その後、寒風山周辺の上瀬戸山国有林にある吉野川上流域の天然林を見学しました。実際に林内に入り、四国の植生の垂直分布や現地の概況、四国森林管理局の保護林や緑の回廊の取組等について説明を行いました。

今回の勉強会に参加されたモニターの方々は、吉野川源流域の森林保全の取組、自然休養林等国有林のレクリエーションとしての活用、天然林等の管理に

ついて、直接目にし、説明に熱心に聞き入っていました。また、活発に質問や意見を述べられて、理解を深めました。



天然林の観察

「四国山の日inこうち」開催

《指導普及課》

一〇月一三日、一四日の両日、高知県高知市と嶺北地域を中心に、四国の森づくり実行委員会、四国山の

日inこうち実行委員会主催による、「2012四国山の日inこうち」が「持続可能な山の暮らしを支える四



四国山の日受賞者の皆様

国の森づくり」をテーマに開催されました。

今年で九回目の開催となるこのイベントは、森林の持つ多面的機能を発揮させるため、森林整備、木材利用や、森林環境教育活動を地域住民や森林ボランティア、関係機関等と連携・協力して取り組むこととして、平成一六年度に四国四県と四国森林管理局による「四国の森づくりに関する

共同宣言」に基づき実施されています。

初日は、四国森林管理局大会議室において「四国山の日賞」の表彰式を行い、続いて、今年度四国山の日賞を受賞した全ての団体が日頃の森づくりなどの取り組みを報告しました。

基調講演では、高知からグローバルに幅広く活躍されているデザイナー梅原真氏が、「森林をタノシクす



はちよん談義

るプロジェクト84プロジェクトを語る」と題して、「マイナスを（個性）プラスと見る」発想を伝授。

続いて高知県内で活躍する森づくり活動家と梅原氏とが、これからの四国の森づくりに何が必要かについてのフリートークを行い一日目は終了しました。

二日目は、高知県の嶺北地域の、「自伐林家視察コース」の自然との共生、「森の工場視察コース」のH型集材、「甫喜ヶ峰フェスティバルコース」の森の恵満載の、三分科会に分かれ視察しました。

二日間とも天候に恵まれ、施設の見学や参加者間の交流を深め、二日間を終えることが出来ました。

また、一日目の宵には、四国四県からの参加者

が、「土佐のおきやく」で、森の話で盛り上がりました。

来年は、徳島県で開催予定です。今後、四国の森づくりにおいても、マイナスをプラスに捉えた取り組みを実践していきたいでしょう。



第三回全国源流サミットが、四万十川の源流点がある高知県津野町で一〇月

林業の現状と課題について講演されサミットに華を添えました。

一九日から三日間開催されました。二日目の全体サミットでは、特別講演として、沼田林野庁長官が「森林・林業の再生と山村振興の展開」と題して森林・



沼田林野庁長官の講演



二日目 分科会